

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所長

令和 8 年度農作物病害虫発生予察情報について

令和 8 年度農作物病害虫発生予報第 10 号を発表したので送付します。

令和 8 年度農作物病害虫発生予報第 10 号

令和 8 年 10 月 8 日
徳 島 県

I. 果樹

カンキツ

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9 月 25 日～30 日に行った温州ミカンの巡回調査では、発生圃場率が 25.0%、寄生葉率が 3.0%と、平年(63.9%、5.6%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方气象台が 10 月 1 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

カキ

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9 月 25 日～30 日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 6.7%、発病果率が 0.1%)。
- (2) 高松地方气象台が 10 月 1 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 9 月から 11 月の降雨は果実の被害を助長するため、発病果が認められる場合は、薬剤による追加防除を行う。

フジコナカイガラムシ

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少～中」
- 2) 予報の根拠
(1) 9月 25 日～30 日に行った巡回調査では、発生圃場率が 16.7%、寄生果率が 0.7%と、平年(40.0%、1.2%)に比べてやや低い。
(2) 高松地方気象台が 10 月 1 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 密度の高い園では、2 回以上の防除が必要である。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ等) (令和 8 年 5 月 13 日、 8 月 3 日付けで注意報発令)

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
(1) 9月 25 日～30 日に行ったカキにおける巡回調査では、発生圃場率が 33.3%、被害果率が 0.3%と、平年(25.0%、1.4%)並の発生である。
(2) 9月 1 日～30 日の予察灯調査において、勝浦町では、ツヤアオカメムシが 1,038 頭と、平年(451 頭)の 2.3 倍、チャバネアオカメムシが 1,384 頭と、平年(743 頭)の 1.9 倍誘殺された。また、上板町では、ツヤアオカメムシが 930 頭と、平年(254 頭)の 3.7 倍誘殺されたが、チャバネアオカメムシは 476 頭と、平年(453 頭)並の誘殺となった(表 1)。

表 1 予察灯への各種カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]								[チャバネアオカメムシの誘殺数]							
月	半月	勝浦町			上板町			月	半月	勝浦町			上板町		
		2026年	2025年	平年	2026年	2025年	平年			2026年	2025年	平年	2026年	2025年	平年
9	1	171	103	48	250	16	20	9	1	91	107	106	82	42	78
	2	205	24	64	140	1	27		2	130	179	187	48	25	70
	3	324	48	51	292	10	25		3	537	191	117	123	30	52
	4	242	48	52	153	17	48		4	412	66	99	80	13	100
	5	55	62	109	75	36	41		5	143	61	117	105	40	90
	6	41	94	127	20	38	93		6	71	209	117	38	46	63

- (3) 高松地方気象台が 10 月 1 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行う。
(2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
(3) 移動性が大いなので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。
(4) 合成ピレスロイド系剤は、殺虫効果と吸汁阻害効果に優れ、残効も長いですが、天敵への影響が強く、ハダニ類やアブラムシ類の多発を招く場合があるので注意する。

Ⅱ. 野菜

アブラナ科野菜共通

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月25日～30日に行ったブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が41.2%、寄生株率が4.5%と、平年(42.8%、5.1%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

コナガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月25日～30日に行ったブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が5.9%、10株当たり寄生幼虫数及び蛹数が0.0頭と、平年(19.1%、0.1頭)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

モンシロチョウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月25日～30日に行ったブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が5.9%、10株当たり寄生幼虫数が0.1頭と、平年(8.1%、0.1頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 若齢幼虫期の防除に努める。

秋冬ネギ

黒斑病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月25日～30日に行った巡回調査では、発生圃場率が11.1%、発病度が0.1と、平年(13.3%、0.2)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、定期的に薬剤を散布して予防する。
- (2) 肥切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月25日～30日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が3.3%、寄生株率が0.1%)。
- (2) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月25日～30日に行った巡回調査では、発生圃場率が22.2%、被害度が0.8と、平年(55.6%、2.4)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月25日～30日に行った巡回調査では、発生圃場率が11.1%、被害度が0.1と、平年(36.7%、3.8)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

冬春イチゴ

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 9月25日～30日に行った巡回調査では、発生圃場率が15.4%、寄生株率が7.7%と、平年(4.6%、0.3%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

- (3) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月25日～30日に行った巡回調査では、発生圃場率が7.7%、寄生葉率が0.1%と、平年(6.7%、0.1%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

野菜共通

ハスモンヨトウ(令和8年6月5日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月1日～30日のフェロモントラップへの誘殺虫数は、平年に比べてやや少なく推移している(図1)。
- (2) 9月25日～30日に行ったブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が35.3%、寄生株率が2.5%と、平年(58.6%、7.5%)に比べてやや低い。
- (3) 9月25日～30日に行った冬春イチゴの巡回調査では、発生圃場率が46.2%、被害株率が3.7%と、平年(53.3%、7.1%)並の発生である。
- (4) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

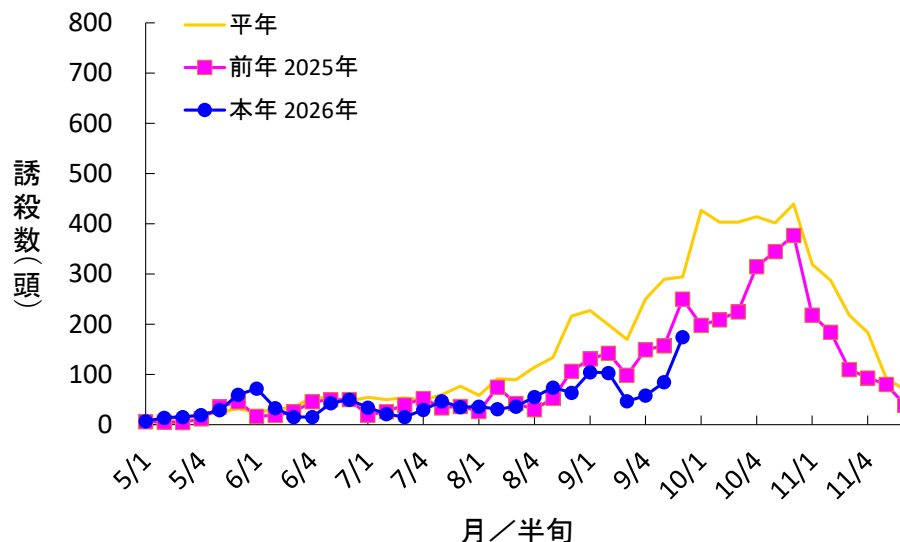


図1 ハスモンヨトウフェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)

* 徳島市,石井町,阿波市,吉野川市,東みよし町,三好市の9地点平均

シロイチモジヨトウ (令和8年6月5日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 9月1日～30日のフェロモントラップへの誘殺虫数は、平年並に推移している(図2)。
- (2) 9月25日～30日に行った秋冬ネギにおける巡回調査では、発生圃場率が33.3%、寄生株率が3.1%と、平年(60.0%、6.0%)に比べてやや低い。
- (3) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

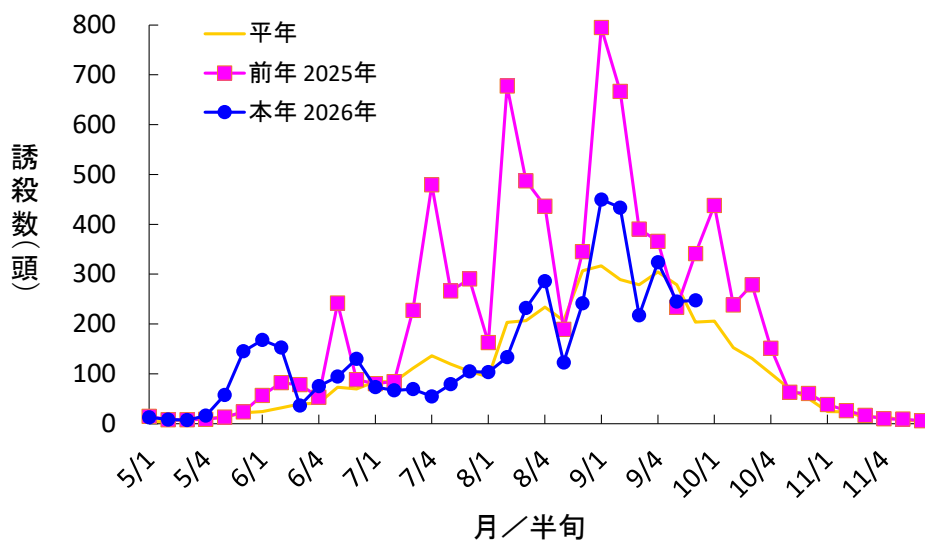


図2 シロイチモジヨトウフェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)
* 徳島市、石井町、阿波市、吉野川市の7地点平均

オオタバコガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月1日～30日のフェロモントラップへの誘殺虫数は、平年並に推移している(図3)。
- (2) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が著しく低下するので、使用基準に基づき定期的な薬剤防除を行う。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

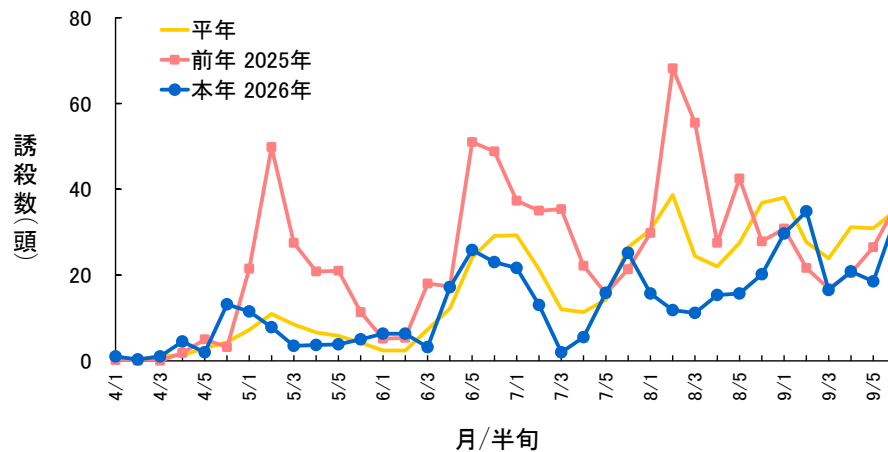


図3 オオタバコガ フェロモントラップ誘殺数推移
*阿波市・三好市・東みよし町・石井町の6地点平均

Ⅲ. その他

- 1) ハスモンヨトウをはじめとする食葉性害虫等の発生が多くなる時期である。野菜類の定植後には圃場を見回り、発生を確認したら速やかに防除すること。
- 2) 薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守し、周辺作物へ飛散しないように注意する。

発生量の表示

発生程度：甚＞多＞中＞少＞無

発生量：多い＞やや多い＞並＞やや少ない＞少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

URL：<https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。